

# 電気興業株式会社 2023年3月期 決算 投資家様向けオンライン説明会 質疑応答 (2023年5月30日 開催)

<質問 1 >

Beyond 5G、6Gについて知りたいです。

回答：

Beyond 5G、6Gに向けての国内の検討状況について、メインとして Beyond 5G 推進コンソーシアムという団体が産官学共同で設立され、議論が進んでいます。主な議論として、ミリ波とオープン RAN の推進が挙げられ、弊社もこれらの取り組みを進めています。ミリ波の推進に関しては、エリアの確保の技術等に課題があるという認識があり、ミリ波の伝搬環境の測定を推進するためのアンテナ開発や、ミリ波の伝搬環境を確保するための反射板等を用いたエリア構成技術について進めるとともに、無線装置としてはレピーターの開発も進めています。こちらについては、5GMF のミリ波推進アドホックで先週行われたワイヤレステクノロジーパークに弊社ブースも設けていただいております。これらの技術についてご紹介させていただいています。なお、ミリ波の普及は現状エリア構築に関しては進んでいませんが、Sub6 帯エリアを先行して重視させるべきという議論も進んできています。現状ネットワークに関して年間 1.3 倍とトラフィックの増加が急激に進んでおり、容量対策が急務となっています。こちらに関しても、Sub6 帯アンテナの需要に弊社としてもしっかりと対策をまいります。もう一つの Beyond 5G の活動にあたるオープン RAN の取り組みについては、昨年 10 月から NTT ドコモ様向けに出荷を開始した O-RAN インターフェイス対応の無線装置をキーにラインナップの拡充を進めています。NTT ドコモ様と協力し、弊社でも海外展開を図っていきたいと思います。

<質問 2 >

今後の見通しとして、ソリューション分野や高周波新領域で他社との協業を目指すと掲げていました。既に決まっているものがありましたら教えてください。

回答：

ソリューション分野においては、ネットワークを構築する技術は既に出来上がっています。新たに取り組みたい事業としては、具体的な企業名は申し上げられませんが、AI やクラウド技術、ソフトウェアの開発を強みとする企業を選定し、連携を図っています。先ほどご説明申し上げた盛岡市様の関連につきましては、そのような技術を持っている企業様とマッチングし、ご提案し採用いただいた実績がございます。また、当社技術と関連がある技術を持つ大学様とも協業し、新たな技術を蓄えていることを進めている状況です。高周波新領域に関しては、乾燥技術を弊社は持っていますが、それをどのように活かせるかはまだまだ未知の領域です。そこで、営業活動として、まずは食品業界にアタックをし、たとえば飲料メーカー様や食品を

加工するメーカー様から出る廃棄物に関して営業活動を行い、そちらとテストを繰り返している状況です。いかに効率良く乾燥でき、効率良く廃棄できるかについて検討を進めている段階です。また、ある大学様とは、乾燥技術により、旨味や保存期間がどれだけ延びるかの技術検討等を一緒に進めており、それを永続的に進めることにより、商売の実現となるよう取り組んでいます。

<質問 3>

EV 化に関する事業への影響について、教えてください。

回答：

EV 自動車において、電気のエネルギーを自動車の駆動に機械的に伝達する部品で、高周波焼入れを必要とする部品が増えてきております。開発、試作段階より顧客に入り込み設備の拡販に努めてまいります。

<質問 4>

防衛関連費の予算が増額していますが、貴社への影響はいかがでしょうか。

回答：

当社はこれまで防衛関連分野を重要なセグメントとして捉え、陸海空各自衛隊に向けてアンテナを中心とした通信関連設備を数多く納入した実績がございます。今後については、政府は新たな防衛力整備計画として、2023 年より 5 年間、防衛力整備の予算を、現在の計画水準の 1.6 倍である約 43 兆円とすると公表しています。この状況を踏まえますと、当社の関連する設備分野に関しましても新規の建設や更新の需要が考えられます。当社としてはこれまで以上に防衛分野に注力し、これまで培った経験と技術を活かしてさらなる受注拡大に取り組んでまいります。